

スーパー
図解

最新版

パツと頭に入る



経済常識

富士総合研究所理事

高木 勝

監修

最新版



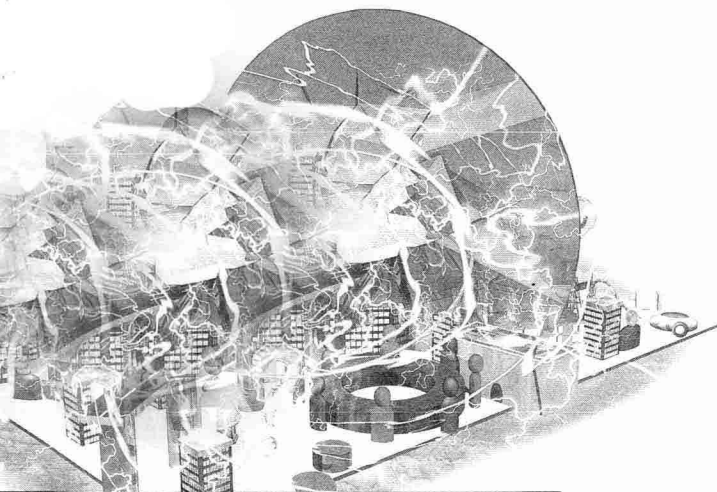
経済常識

富士総合研究所理事

高木 勝 監修

江苏工业学院图书馆
藏书章

実業之日本社



高木 勝 たかぎ まさる

昭和44年慶応義塾大学経済学部卒。同年富士銀行入行、調査部調査役、調査部次長を経て、昭和63年富士総合研究所経済調査部長、平成5年同研究所・研究主幹（経済調査担当）、平成9年6月理事就任となり現在に至る。

この間、昭和50年4月から52年3月まで日本経済研究センター出向、昭和57年8月から62年7月まで調査部ニューヨーク駐在。

東海大学非常勤講師、産業構造審議会産業金融小委員会専門委員、防衛庁「新時代の防衛を語る会」委員、大蔵省財政金融研究所政策効果研究会委員、内閣官房「危機管理研究会」委員、内閣官房「経済産業研究会」委員、経団連専門委員、NHK・モーニング・ワイド「経済展望」レギュラー出演等を歴任。

現在、明治大学政経学部兼任講師、経済企画庁「ビジネスエコノミストとの懇談会」委員、内閣官房「構造改革研究会」委員、テレビ東京「番組審議委員会」委員、NHK・ラジオ「ビジネス展望」レギュラー出演。

著書：ダイヤモンド社「日本経済は復活する」

光文社「九勝六敗の日本経済」

時事通信社「『日本の時代』は再び来るか」（共著）

有斐閣「景気の読み方」（共著）

有斐閣「金融理論と金融政策の新展開」（共著）

ほか、論文多数。

[スーパー図解] パッと頭に入る経済常識

1998年2月25日 初版第1刷発行

監修者／高木 勝 Masaru Takagi©1998

発行者／増田義和

発行所／株式会社 実業之日本社

本社 東京都中央区銀座13-9／振替00110-6-326

〒104-8233 電話 03(3562)1967〔編集〕 03(3535)4441〔販売〕

関西支局 大阪市北区曽根崎2-12-7 梅田第一ビル

〒530-0057 電話 06(312)1573

印刷所／東京研文社

製本所／有限会社共文堂

Printed in Japan

落丁、乱丁の場合は小社でお取りかえいたします。

ISBN4-408-13350-7

はじめに ● 不透明な時代に経済をみる「目」を養なうには、
確かな基礎知識が不可欠である

90年代の日本経済をみると、バブルの崩壊によって低迷状態が長引き、株価もピーク対比6割前後の下げを続けている。また、円対ドルレートは乱高下し、経済に大きな影響を及ぼしている。一方金融面では、金融機関が不良資産の削減にヒト・モノ・カネの大半を振り向け、敗戦処理に追われる昨今だ。この間、銀行や証券会社の破たんが相次ぎ、わが国の金融システムは大きな混乱状態にある。

このように、経済・金融は激しく変動しており、現状を正確に把握することがきわめて重要になっている。また同時に、先行き不透明感の増大から、将来展望が従来以上に難しくなっているといつてよい。政府やエコノミストでさえ、最近判断を誤ることが多い。

では、どうしたら「経済をみる目」がつくれるのか。事はそれほど簡単ではない。経済をマスターすることに近道や簡便な方法はないと思う。各人が各人なりに時間をかけて「目」をつくり出す以外にないのではないか。

それでもあえていうとするならば、第一は、経済に強い関心をもつことである。そして、経済現象の変化に“なぜ”という問い掛けから出発したらどうか。また、経済だけでなく、政治や軍事、社会面などの動きをみることも重要である。

第二は、経済・金融の基礎知識を幅広く学ぶことであろう。経済現象は一定の法則に従って変化することが多く、知識の習得が経済分析の第一歩となる。

第三は、歴史に学ぶ必要性である。経済の歴史的な流れを知ることが現状を理解し、今後を予測する際に有力な武器となる。今後の経済の推移は歴史の反復が50%、残りの50%が新しい潮流ではないか。

第四は、専門家の考え、コメントを批判的にみることだ。そして、自分の見方をまとめるための手掛かりとしてこれらを活用したらどうか。特定のエコノミストの意見を継続的に追いかけるのもよいかもしれない。

本書は経済の基礎知識を把握し、「経済をみる目」をつくる一助としてできたものである。経済は理解が難しいといわれるが、この本では「わかりやすい説明」に注力し、同時に「ビジュアルな図解」を最大限に重視している。読者がこの本により経済の全体像を把握してもらえらるなら、この上ない喜びである。

最後に、本書の完成においては荻野 守（実業之日本社）、大平祥司・松田尚之（武蔵野社）の三氏に多大な支援をいただいた。心から謝意を表したい。

1998年1月

高木 勝

第1章

 経済の基本的な
仕組みは
こうなっている

1 経済とはどういうことをいうのか 10

経済とはお金をやりとりすること

2 経済を形成しているものは何か 12

経済の主役は「個人」「企業」「政府」の3つ

3 「景気がいい」「景気が悪い」をはかる基準とは 14

企業の景気がよくなれば、個人も国家も豊かになる

4 景気の循環には一定の法則がある 17

好況→後退→不況→回復と、景気は一定の法則で繰り返す

5 ミクロ経済とマクロ経済の違いとは 20

経済を個人や企業からみるか、集計的な視点でみるか

6 GNPとGDPの違いとは 23

国の豊かさを知る目安のこと

7 物価はどんな仕組みで決まるか 26

需要と供給のバランスで決まるのが基本だが.....

8 インフレ、デフレはこうして起こる 29

需要と供給のバランスが崩れることによって物価が変動する

9 インフレを未然に防ぐ政府の金融政策とは 34

インフレが経済に与える悪影響を未然に防ぐ

10 政府が行なう経済政策にはどんなものがあるか 36

税の増減や公共事業費の増減などで経済の安定をはかる

第2章

金融と財政の
基本的な仕組みは
こうなっている

11	税金はこんな仕組みで徴収される	39
12	国の借金である国債とはどんなものか	43
13	高齡化社会を支える財源を何に求めるか	46
14	金融の仕組みはこうなっている	50
15	国家が運営する金融機関とは	54
16	日本銀行はこんな役割を持っている	58
17	金利はこんな仕組みで上下する	61
18	公定歩合以外に金利を調整するものとは	65
19	金融ビッグバンではどんなことが実施されるか	68
20	不良債権とは何か	74

金融機関の経営を圧迫しているバブルのつけ

21	バブルはどうして生まれ、はじけたか	77
22	銀行の合併はなぜ行なわれるか	82
23	ビッグバンで銀行の吸収・合併が促進される	
24	金融市場で今中心になっているデリバティブとは	85
25	「少額の元手で大きな儲け」が得られる金融商品	
26	為替の仕組みはこうなっている	89
27	現金を動かさずに決済する手段として広く使われている	
28	日本版「ビッグバン」で外国為替取引はこうなる	92
29	外為法改正で金融開国が実現する	
30	円高・円安の仕組みはこうなっている	96
	通貨への需要と供給のバランスが円高・円安を決める	
	円高と貿易黒字の関係とは	99
	貿易黒字は正が日本の課題	
	財政の基本的な仕組みはこうなっている	102
	財政には3つの役割がある	
	財政構造改革はこうなっている	106
	歳出の徹底的な見直しが求められている	
	緊縮財政のもとで日本の景気はこうなる	110
	緊縮財政では日本経済に悪影響を及ぼしかねない	

企業・産業と経済の 仕組みは こうなっている

31

株の仕組みはこうなっている

資本主義を支える株。現在は出資よりも投資が主流

114

32

株の流通はどうなっているか

株の売買を仲介するのが証券会社

117

33

ビッグバンで証券業界はこう変わる

大幅な規制緩和・自由化によって証券市場が活性化する

120

34

株式会社と有限会社はここが違う

会社設立の違いだが、有限会社のほうが組織の仕組みも簡単

124

35

株式上場の仕組みはこうなっている

証券取引所で株が取り引きされるには一定の条件が必要

127

36

持株会社解禁でどうなるか

ビッグバンに対応した金融業界の再編・救済の切り札

130

37

倒産とはどういう状態をいうか

倒産は決して他人事ではなくなった

137

38

日本の経営の長所と短所とは

日本企業は年功序列、終身雇用、企業内労組に支えられてきた

141

39

規制緩和はどういう形で行なわれるか

さまざまな規制が日本の産業を保護してきたが……

144

40

産業構造の変革はこうなっている

今後はソフトウェアの開発能力が力ギとなる

148

41

高齢化社会で雇用形態はこう変わる

少ない人手をいかに活用するかがポイント

154

国際経済と 日本の関係は こうなっている

42	日本経済と国際経済はどうかかわっているか	158
43	日本とアメリカの経済関係はこうなっている	161
44	日本の貿易黒字減らしが日米両国間の最大問題	165
45	世界からみた日本の農業はこうなっているか	168
46	政府の手厚い保護の陰で問題が山積みしている	172
47	日本とアジア諸国の関係はこうなっている	176
48	アジア諸国との密接な協力関係は不可欠	180
49	日本と中国の関係はこうなっている	183
50	中国12億の人口はマーケットとして魅力的だが……	186
51	日本とヨーロッパの関係はこうなっている	189
52	市場は統合され、通貨統合も99年に迫っているヨーロッパ連合	192
	日本とロシアの関係はこうなっている	192
	領土問題が日露の経済協力に影響を与えている	192
	発展途上国に対して日本はどんな役割を果たしているか	192
	南北格差是正のため、多分野での協力を求められている	192
	日本の貿易黒字はこう使われている	192
	日本は世界でトップクラスの「金貸し」国	192
	ドルはなぜ国際通貨として流通しているか	192
	国際的に信用のあるドルが今、世界の基軸通貨になっている	192
	国際収支と経済力の関係とは	192
	経常収支黒字を解消するには内需拡大が一番	192

第5章

これからの 経済は こうなる

53	国際分業とはどういうことか.....	195
54	近年は世界の水平分業が急速に発展している	
55	WTOはどんな役割を果たしているか.....	199
56	G7はこんな役割を持っている.....	202
57	ガットより強制力のある機関として、自由貿易促進を目指す	
58	通貨の国際的な安定のために定期的に会合が持たれている	
59	ブロック化経済にはこんな功罪がある.....	205
60	一時的に地域内の経済は活性化するが.....	
57	ビッグバンで日本の個人金融資産はどうなるか.....	210
58	1200兆円が世界で運用され日本に戻ってくる	
59	日本の高コスト体質はどうなるか.....	213
60	規制緩和・自由化で悪体質を是正しなければならぬ	
57	日本の労働力のボーダーレス化はどうなるか.....	216
58	高齢化、労働人口の減少が、外国人労働者への門戸開放になる	
59	日本経済はこれからどうなるか.....	219
60	構造改革の実現なしに日本経済の再生はない	

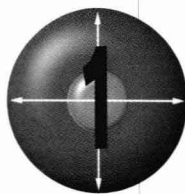
図版作成／アート5
 パーツ作成／西野佳高
 本文デザイン／道信勝彦

第

1

章

経済の基本的な仕組みは
こうなっている



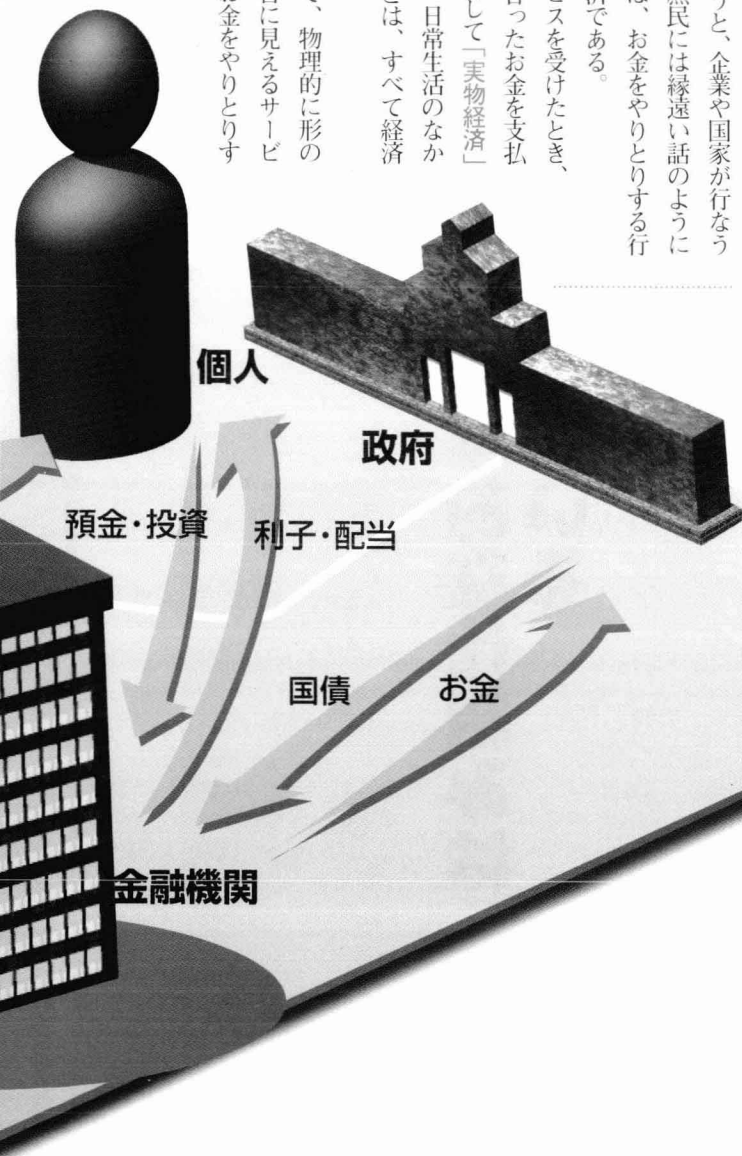
経済とは どういうことをいうのか

経済とはお金をやりとりすること

「経済」というと、企業や国家が行なうもので、一般庶民には縁遠い話のようにみえるが、実は、お金をやりとりする行為はすべて経済である。

モノやサービスを受けたとき、その価値に見合ったお金を支払うことを、総称して「実物経済」と呼んでいる。日常生活のなかでの買い物などは、すべて経済行為となる。

これに対して、物理的に形のあるモノや、目に見えるサービス以外でも、お金をやりとりする経済行為があり、「マネー経済」と呼ば



れている。



実物経済と マネー経済の 違いは？

実物経済では原則として、お金はモノやサービスと同じ価値のものとして扱われる。昼食に600円のそばを食べたら、600円の価値のあるそばを買ったことになるのだ。一方、銀行に預金したり、証券会社から株式を買ったりする行為は、マネー経済である。お金は、株などの有価証券に姿を変えて、自由に市場を流通していき、その過程で株価として価値を上下させる。つまりマネー経済では、お金自体が商品として取り引きされるのだ。

実物経済とマネー経済は、車の両輪のような関係で、どちらがストップしても経済はうまく回転しなくなる。特に今日では、マネー経済が急成長しており、金融機関の役割は大きくなっている。



2つの経済行為とは？

実物経済

支払い(お金)

モノ・サービス

企業

※実物経済では、モノやサービスと同じ価値のお金がやりとりされる

お金

借入れ、
株式発行、
社債発行

マネー経済

資本市場

※実物経済とマネー経済は相互に関連している
※実物経済とマネー経済は車の車輪のような関係で、どちらがストップしても経済はうまくいなくなる

※マネー経済では、お金自体が商品として取り引きされる



経済を形成しているものは何か

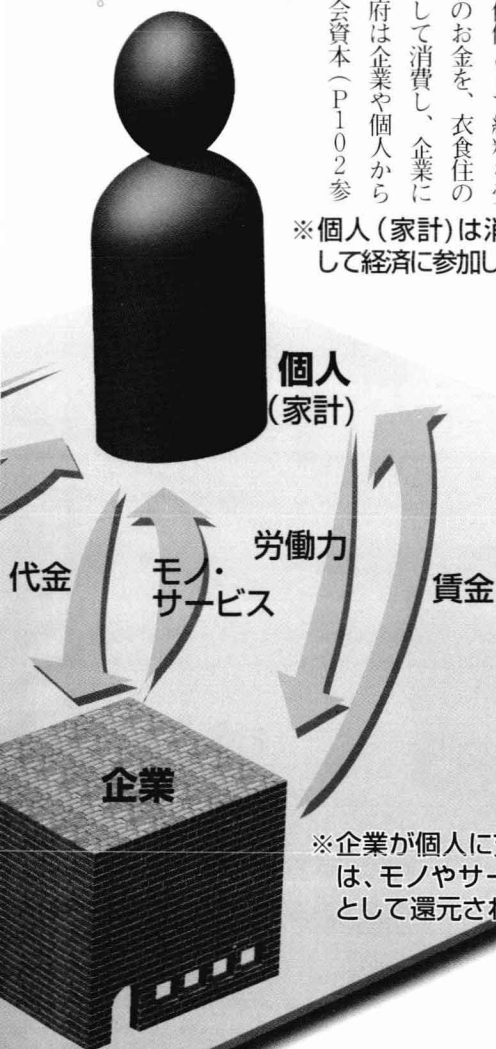
経済の主役は「個人」「企業」「政府」の3つ

経済は企業の活動だけでなく、われわれの生活に密接にかかわっている。そのなかでは個人（家計）や政府も大きな役割を果たしている。

サラリーマンは労働というサービス

を企業に提供し、代価として給料を受け取る。今度はそのお金を、衣食住のモノやサービスとして消費し、企業に還元している。政府は企業や個人から集めた税金を、社会資本（P102参照）の整備、公務員の賃金や、福祉などの行政サービスとして、国民に提供している。これも経済行為である。

※個人（家計）は消費者として経済に参加している。



※企業が個人に支払った賃金は、モノやサービスの代金として還元されている

3つの経済主体のどれかひとつだけが順調ということはありません



経済主体 とは、 何のことか？

「経済主体」とは、経済を担う3つの主役のことである。個人（家計）、企業、政府で、それぞれの間でお金とモノ・サービスのやりとりが行なわれて、一国の経済は動いている。

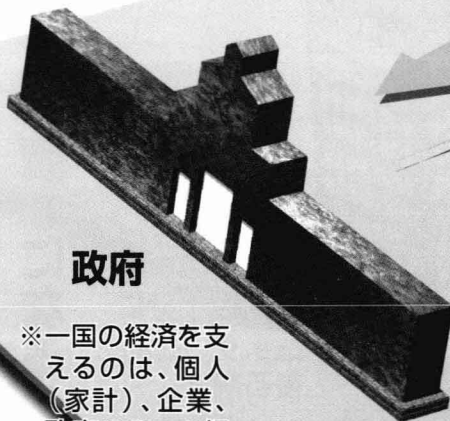
たとえば景気が悪くなり、企業の活動が振るわなくなると、労働者の給料が少なくなる。そうすると個人は消費を控えるようになり、モノが売れなくなつて、企業の業績がますます悪化する。政府も徴収する税金が少なくなり、行政サービスの質や量が低下する。

逆に景気がよくなれば、給料も増え、企業の業績も伸び、税金も増えるわけで、政府は国全体の経済が、いつもよい方向に向かうように、財政・金融政策などを通じて調整を図っている。



2 経済を形成している 3つの主体とは？

※政府も国民にさまざまなサービスを提供している



政府

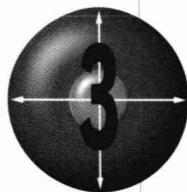
※一国の経済を支えるのは、個人（家計）、企業、政府の3つの経済主体

労働力（公務員）、
税金

賃金（公務員）、
社会保障、
インフラ整備、
行政サービス

税金、
モノ、サービス

代金、補助金、投融資、
行政サービス



「景気がいい」「景気が悪い」をはかる基準とは

企業の景気がよくなれば、個人も国家も豊かになる

「景気がいい」「景気が悪い」と、普段何げなく使っている言葉だが、実際にはどういうメカニズムで景気がいい、悪いというのだろうか？

P12でも説明したように、経済は3つの経済主体からなっているが、そのどれかひとつだけが景気がいいということはありえない。

景気が悪いと消費者は支出を抑えるようになり、モノが売れなくなる。企業は値下げをしなければならず、当然、企業の利益率は下がる。

企業は利益を出すために、労働者の賃金を下げたり、採用を控えたり、新規事業への進出を見合わせたりする。そうになると個人の家計はますます苦しく

マネー経済の
低迷が実物
経済の足を
引っばっている

マネー経済

不良債権の
処理が十分に
進まず、活動が
後ろ向き

資金の
海外への流出
(金融の空洞化)

規制緩和の
スピードが遅い

金利を下げるなど
景気がよくなるように
努力する

賃金抑制
新規採用の
見送り
事業の縮小

仕事が減少

企業

